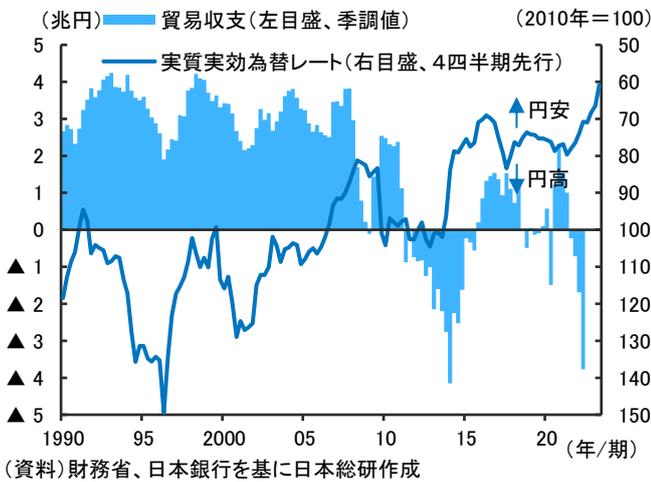


## 円安による貿易収支の黒字効果は消失

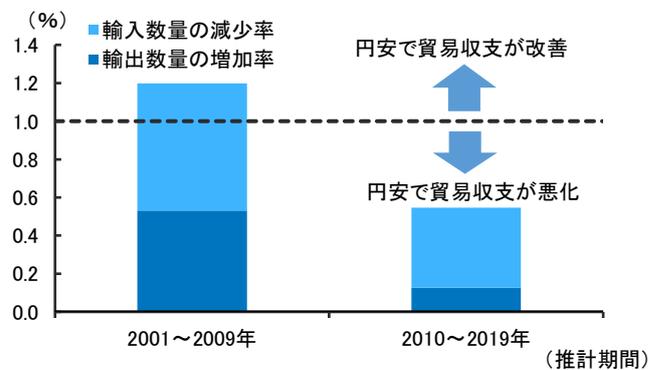
— 実需面の円売り圧力を招きやすく —

- (1) 今次局面では、円安が進行するとともに貿易赤字が拡大（図表1）。これは、円安がラグを伴って貿易収支を黒字化させた過去の関係とは逆。理論的には、1%の円安による輸出の増加率と輸入の減少率の和が1%を超える場合、貿易収支は改善（マーシャル・ラーナー条件）。試算によれば、2000年代と異なり、2010年代は円安が貿易収支を悪化させる効果（図表2）。円安が進行すると貿易赤字が拡大し、実需面からの一段の円安圧力を高める構図に。この背景として、以下の2点が指摘可能。
- (2) 第1に、円安による輸出数量の押し上げ効果が低下。円安には、外貨建て輸出価格の引き下げを通じて、輸出数量を増加させる効果あり。もっとも、その効果が近年低下。試算によれば、1%の円安が輸出数量を押し上げる効果は2010年代に0.1%程度と、2000年代の4分の1に（図表3）。なかでも、機械類の押し上げ効果が大幅に低下。この一因として、低付加価値品の生産拠点の海外シフトとともに、わが国で生産する輸出財の高付加価値化が進展したことを指摘可能（図表4）。価格競争に巻き込まれにくい財が輸出の中心になったことで、為替変動が輸出数量に与える影響は限定的に。
- (3) 第2に、円安による輸入数量の押し下げ効果が低下。円安には、円建て輸入価格の引き上げを通じて、輸入数量を減少させる効果あり。もっとも、その効果も近年低下。世界供給網の広がりや価格変動の影響を受けにくい部材の輸入が増加したことなどが背景。

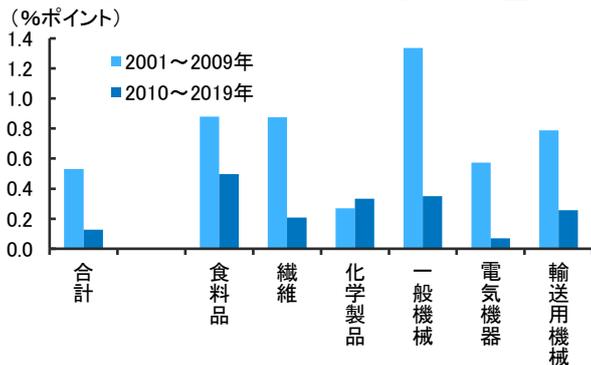
（図表1）実質実効為替レートと貿易収支



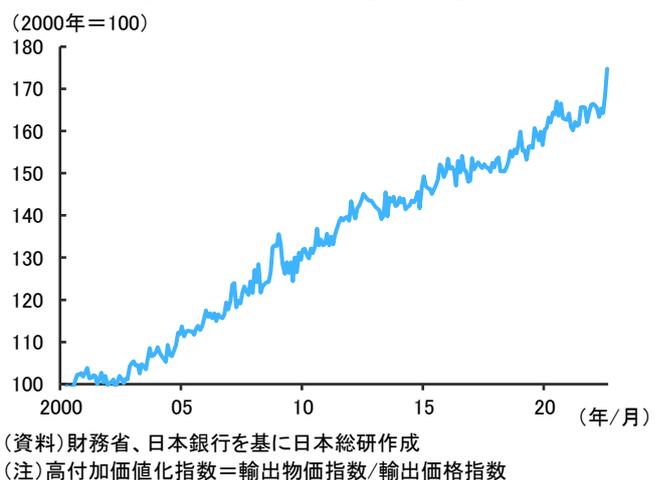
（図表2）1%の円安による輸出入数量の変化率



（図表3）1%の円安に対する輸出数量の反応



（図表4）輸出財の高付加価値化指数



【ご照会先】 調査部 研究員 北辻宗幹 (kitatsuji.kazuki@jri.co.jp , 080-3727-6569)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。